

白藍塾オリジナル

2012入試小論文分析&解答のヒント

2012年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・総合政策学部

例年通り資料は多いが、今回も冒頭に各資料の内容がある程度説明されている。また、昨年度と違って、どの文章も共通のテーマを扱っているのが、対象や視点の違いに注意しながら読めば、整理はしやすいかもしれない。だが、現代史の知識がなければ、すんなりとは理解できない部分もあるだろう。細かい事実関係にとらわれず、自分の論の組み立てに必要な部分だけを、要領よく拾い読みすることが大切だ。

簡単に言えば、資料1はグローバル化の単位、資料2は日本企業の海外市場との関係、資料3は国家資本主義、資料4は政治経済的な地域統合、資料5は民主化の波及、というポイントに注目して、グローバリゼーションの進展の諸段階を分析している。

問題1は、「グローバリゼーションが世界の政治・経済にもたらしている変化」について論じる問題。一見、長めの説明問題のようにも思えるが、「論じてください」とある以上、通常の小論文問題と考えてよい。

「各資料の共通する論点、立場の異なる論点、あなたが重要と考える論点などを挙げつつ」とあるが、基本通り、最初の段落で各資料の要点を簡単にまとめた上で、グローバリゼーションの是非を問題提起して、とくに注意すべき論点に触れながら自分の考えを論じればそれでよい。各資料のうちで最も大きな対立点は、グローバル化が市場の個人への解放をもたらすという資料1と、国家資本主義の拡大をもたらすという資料3の間に見られるので、そこに注目して論じるのが、最も書きやすいだろう。たとえば、「確かに、グローバル化が急激に進むと、新興国では国家による市場の統制を伴い、一時的に国家権力が強大になる危険もある。しかし、全体としては、国家を越えた個人や地域のネットワーク化が進み、新たな市場の可能性が開ける」などのように論じることができる。

また、資料2や4は、アメリカの一極集中が崩れ、各国や各地域の間で双方向のネット

ワーク化が進んでいることを示しているので、そのことを問題にするのもよい。

問題2は、かなり難しい。どの資料を選択するかが鍵となるが、事実上選択肢は限られる。資料1は、すでに最後の「バージョン」まで達しているように思えるので、この先を考えることは難しいだろう。資料3では、国家資本主義の西側諸国への拡大か、逆に新興国でも市場の自由化が進むことが予測できるが、これはある程度知識がないと論じにくい。資料4と資料5は、それぞれ「TPP（地域を越えた多角的協定）」「中東の民主化」という現在進行形のトピックがあるので、それらをとっかかりにすれば比較的考えやすいはずだ。

書き方としては、最初に自分の考える「バージョン」の特徴をずばり示し、「確かに、他のバージョンの到来も考えられる。しかし、このバージョンが到来すると考えるのが妥当だ」などのように続ける。そして、「展開」で、このバージョンによって世界の政治・経済がいかに変化するのかを具体的に説明するとよいだろう。あまり無理をせず、自分が確実に知っている範囲で論じることが大切だ。資料の要点を適切に理解して利用できていれば、十分合格できる。

内容的には難しい面もあるとは言え、SFC対策をしっかりと準備していれば、十分対応できるだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>